

# 東京冀北

令和5年11月



## 四年間を振り返って



東京冀北会  
会長  
橋本和久

高19回卒

2期4年の会長任期を終えて本年1月の総会をもって退任し、次期会長に引き継ぐことができると思います。4年にわたり多大なるご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

令和元年、会長就任直後に新型コロナウイルス感染拡大という未曾有の出来事が起こり、2年間は総会・懇親会を開催できず苦しい時期が続きましたが、役員の皆様を支えられて乗り切ることができました。そして、何よりも心強かったことは総会開催断念のご案内をしたにもかかわらず、会費納入者は例年と変わりなく、改めて掛西同窓会の伝統と東京冀北会の絆の強さを感じました。昨年3年ぶりに開催することができた総会・懇親会は盛会のうちにとり、その後コロナに感染したとの連絡もなく安堵したことを思い出します。

私の座右の銘でもある「人の一生は重荷を負いて遠き道を行くが如し、急ぐべからず」は徳川家康の遺訓と言われています。この夏「徳川家康の人間関係学」（童門冬二著）を読みました。

戦記小説ではなく家康が「律義で我慢強く、慎重と果敢のバランス感覚の持ち主」であり、個性・信念・知恵をどの様にして身につけて、天下人となったのかについて書かれています。

三河は後進的な農業地域で利害より情義を重んずる気質があり、三河武士という忠誠心の異常に強い集団ができたのです。駿河での人質時代、僧侶である太原雪斎に武将の資質を見込まれて学問・軍学の教えを受け、実用でない和歌・茶道等は無駄とし、愛読書の「六韜三略・吾妻鏡」で道徳・兵法・歴史を学んだのです。

信長とは同盟とは言え臣従であり、重臣たちの考えは十分聞くが最後は自分の信じるままを貫き、秀吉とは講和をしたが臣従はせず、関東移封後も根気と忍耐で時を待ったのです。「鳴かぬなら鳴くまで待とうホトトギス」であります。

三河生まれですが、掛川城・高天神城・三方ヶ原の戦い、そして、二代將軍秀忠の生母である側室於愛の方（西郷局）は掛川市上西郷の生まれでもあります。遠江に縁の深い武将です。

同窓会にて青春時代の思い出を語り合い一献を傾けることは、心身を癒し健康長寿の源になると言われています。これからも先輩・同輩・後輩との交流を深められることを願っております。

終わりに、東京冀北会の発展と会員皆様のご健勝を祈念し、ご理解とご協力に重ねて感謝し退任のご挨拶いたします。

## ライフワークになった 太陽電池研究余談



小長井 誠

高20回卒

わたしは、元来、高い所から景色を眺めるのが好きであった。若い頃からニューヨーク、シアトル、パリ、上海、ソウル、シンガポール、マレーシアなど、どこの国に行っても、まず高い所から360度のパノラマを眺め感動していたように記憶している。先日、お墓参りの際、掛川の天然温泉付き高層ホテルに泊まった。13階の展望風呂から眺める掛川城は格別の眺めであった。外を歩きながらでは見いだせない、緑豊かな掛川城を眼下に眺めることができた。

わたしは掛西を卒業後、東京工業大学に入学し、修士課程、博士課程を修了、さらに助手、助教授、教授として研究・教育活動に務め、2014年に定年退職した。その頃、東日本大震災の復興事業として大きなプロジェクトを実施していたこともあり、東工大を退職後、東京都市大学に移籍して活動を継続した。すでに都市大で9年間、特別教授として研究活動を継続している。

大学における私の研究は一貫して半

導体に関係するものである。いま半導体というと集積回路を指すが、わたしの研究の主たる部分は太陽電池である。太陽電池も半導体からできている。太陽電池の研究を始めたのは、1972年、ちょうど50年も前のことである。その当時は第一次オイルショックの時代で、石油に替わる新しいエネルギー源として太陽電池、ならびに太陽電池を使った太陽光発電の技術開発が始められた。太陽電池は、集積回路などに比べると簡単な構造であるため、10年もあれば片が付くと思っていたが、それが何十年も続くライフワークになるとは、その当時、まったく予想がつかなかった。結局、太陽電池の研究開発を50年間継続している。太陽電池開発には、メートルサイズの面積積モジュールでエネルギー変換効率が高くしかも長寿命で低コストという非常に挑戦的な課題があった。長年の研究開発が実り、太陽光発電は、今ではわが



2015年フランス モンサンミッシェル

国の年間電力需要の7%を賄うまでに成長した。

太陽電池開発は世界共通の研究課題である。これまで世界各国を訪れその国の



2019年 兵馬俑

研究者らと交友を深めてきた。わたしは、東工大を退職する際、退官記念講演で多くの若者を前に、世界で活躍するための十か条なるものを披露した。その内の最後の4項目を紹介したい。**第七条** 国籍・宗教・人種に係わらず世界中のひとと仲良くできること。**第八条** どの国に行っても、その国の習慣・食べ物に文句を言わず、何でも好きになれること。**第九条** 何でも誘われたら断らないこと。**第十条** 世界中どこに行ってもよく眠ることができること。

太陽電池研究を若い学生・職員・太陽光発電コミュニティーの研究者らと共に50年に亘り続けてきた。そんな折、2013年には太陽電池の先駆的な基礎研究と実用化に貢献した長年の功績が認められ、紫綬褒章を受章した。2050年のカーボンフリーの世界を実現するには、まだ30年の研究活動が必要である。どうも百歳まで頑張れとはっぱをかけられた思いである。

## サクスを吹いて



石川 準次

高20回卒

私は才能には全く恵まれなかったのに小さい頃から音楽が好きだったので、中学、高校、大学の部活動では専らクラリネットやサクスを吹いていました。

高校時代は、灼熱の炎天下、楽器を持って野球の応援に駆り出された思い出が残っています。試合中はチャンスやピンチの度に次から次へと繰り出される指揮者のタクトに従わなければならないので、ずっと指揮者を見ていないのはなりません。そのうえ演奏はピッチやリズムそっちのけでひたすら大きな音を出すことが求められていますので、試合を観戦するとか演奏を楽しむどころではありません。この歳になっても、高校野球甲子



結婚式での演奏



2023年9月YAMAHA ELECTONE FESTIVALでのステージ

園大会でのテレビ中継でアルプスバンドでのブラスバンドの応援を見るたびに懐かしい当時は、音楽とは全く無縁の生活でしたが、ニューヨーク勤務時代に、仕事が終わったあととグリニッチビレッジにあるジャズクラブに足を運ぶことが楽しみになり、そのことがきっかけで再び60歳手前からサックスの練習を始めました。

会社をリタイアするやすぐに社会福祉協議会にボランティアの登録をして、介護施設や地域の団体のイベントで演奏したり、コンサートに参加したりして音楽を楽しんでいます。

ポピュラー音楽の世界は1950年代後半から1980年代にかけての約40年間で最も華やいた時期であり名曲がたくさん作られた時代だと勝手に思い込んでいます。世代によって感じ方は様々あつて当然ですが、あえて申し上げると、DTM (Desk Top Music)

私は1969年4月に掛川西高に入りました。新入生歓迎会で生徒会長「君達には入学おめでとうとは言わない」の発言に驚き、同年8月まで続いた「掛西反戦会議」を名乗った生徒達の行動は衝撃的でした(\*1)。菊川市(旧小笠町)でのんびり育った私にとって高校生活は大いに刺激的で、多くの同級生や先生に恵まれ、今日の私の基礎を築いてくれた3年間でした。

大学卒業後、公認会計士として大手監査法人(東京)に14年ほど勤務した後、私の叔父が経営する建設用仮設機材レンタル会社(本社大阪市、社員150名)の社長に就任し昨年12月



渡邊 建三  
高24回卒

## 掛川西高への思いと感謝

みたいデジタルの世界で作られた。今の音楽が人間の感性に響くはずがないと思っと思っています。

若かった頃に次から次へと生まれた素晴らしい曲の数々にリアルタイムで出会うことができた幸運を、同じ世代の方々と一緒にかみしめながら、音楽をできるだけ長く楽しみたいと思っ活動しています。

まで28年間経営に携わってきました。公認会計士からいきなり経営者になり惑う中で読書などを基に試行錯誤の経営をしていましたが、2015年にK経営コンサルタントと出会い「あるべき経営者像やそのための行動指針」を学び、全力で経営に取り組んできました。その後、外部環境にも助けられ、会社は高収益会社に成長し、更なる企業価値向上を目指して投資ファンドに株式を譲渡し、私は予想外の株式売却金額を手に入れました。これらのお金の使い道として、今日の私の基礎を築いてくれた出身校に寄付しようと思っしました。

掛川西高の同級生と相談して、2017年7月に「一般社団法人掛川西高学而会」を設立し、同会に寄付をしました。同会の目的は「掛川西高が文武両道の県立高校として将来を担う若者を育てることを外部から応援し、地域社会に貢献することです。同会では全国大会に出場した団体・個人の顕彰や校内のトイレ洋式化、特別教室の冷暖房設備導入、トレーニングルーム新設、寮、車両等の提供などを行っ



桑原喜八郎「人物習作」



2023年8月掛川同窓会 同期生達と

ました。同会の運営は同級生や賛同者の献身的な協力で成り立っています。今後の運営についてはさらに多くの方々のご協力をお願いしたいと思います。

2018年、長野県上田市にある戦没画学生慰霊美術館「無言館」を訪れました。先の大戦で亡くなった方の中には若い画学生が含まれ、彼らの絵画や彫刻が展示されています。たまたまその中に旧制掛川中学卒業生の桑原喜八郎(中34回卒)(\*2)の作品が展示されており、将来を戦争によって奪われた無念さが伝わるとともに平和のありがたさをかみしめました。(掛川西高同窓会名簿によれば同卒業年度は卒業生107名中22名が戦死。)

今後も「自分しかできないこと、何か世の中にお役に立てること」を見つけて実行していきたいと考えています。

\*1 小林哲夫著『高校紛争1969・1970』中公新書(2012)

196頁に「掛西反戦会議」を名乗る一部生徒による「掛西紛争」についてとりあげられている。

\*2 桑原喜八郎 1920年〜1943年、掛川市生まれ、学徒出陣し、ビルマ戦線で戦死した。

## クラシックギターと音楽と共に



山口直哉  
高25回卒

私が高校の頃はフォークソングブーム、文化祭ではギター片手に反戦フォークを歌う先輩がいたり、クラスでも誰かがギターを弾き皆で「青年は荒野をめざす」を歌ったりしていました。自分もご多分に漏れずギターを購入して流行りのフォークソングを歌っていました。

そんな高校生でしたが大学に入りなぜかフォークソングではなくクラシックギターのサークルに入りました。それがクラシックギターとの出会いで学生時代は毎日のようにギターを弾いていました。

しかし就職したら仕事に追われる日々、ギターからはだんだんと遠ざかってしまいました。やがて定年を間近に



2021年7月 浦安音楽ホール  
「椿姫の主題による幻想曲」

控えた頃、自分にはやり残してきただけが、それはクラシックギターではないか、もっと大きく言えば音楽ではないか、と思うよう

になりました。そのころは仕事を後進に任せるようにし時間的にも余裕ができていましたので、もう一度クラシックギターを基礎からやり直してみようと思いたちました。

それから何人もの先生方の指導を受け色々な発表会で演奏したりコンクールにも出場したりして演奏技術を磨き音楽についても深く学ぶ機会をいただけてきました。

おかげさまでクラシックギターオーディションというコンクールで首席入賞をいただいたり、全日本アマチュアギターコンクールで二位をいただいたりしました。

このような活動の中でギターだけでなく、他の楽器の奏者とも知り合い、幅広く音楽を楽しむことができるようになってきました。クラシックギターは独奏が多いのですが、二重奏、三重奏など合奏もありますし、ピアノや声楽、フルートなど、他楽器との重奏もあります。最近特にピアノとの重奏



2023年7月 ピアノ教室の先生と  
「スペイン舞曲第1番」

の機会が増えていきます。またボランティアで地域の音楽仲間とコンサートを開いたりもしています。

今は完全に仕事を引退し趣味の音楽に没頭する日々を過ごしています。とはいえ発表会やコンサートの企画をするのは何かと大変ですが、音楽を仕事ではなくあくまでも趣味として楽しんでいるからこそできるのだと思います。プロであればそれなりの品質が求められるし収益も上げないといけません。そこは気にせず好きな音楽をやりたいようにやれるのがアマチュアの強みだとプロに言われたことがあります。まさにその通りで、これからもアマチュアの強みを生かしてもっと多くの音楽仲間と音楽を楽しんでいきたいと思っています。

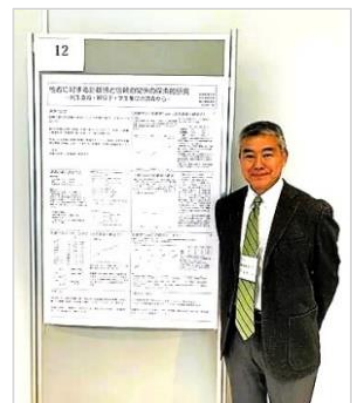
## 社会学を学んでいます



太田裕一郎  
高27回卒

退職を期に社会学を勉強するために地元の大学の大学院に通い始めました。理由はふたつあります。

私は薬学部を卒業し、医薬品開発の仕事为基础と臨床開発の二つの場面で経験してきました。いずれも、仕事関



2023年3月  
数理社会学会での発表

係の方々とは、レギュレーションに基づいて専門用語で話をする、極々内輪の集団の中で生きてきました。そのため、正直なところ社会をどれだけ理解しているかは自分でも疑問でした。退職して会社を離れて社会に出て、かなりの時間を社会の中で生きていかななくてはならないとなると疑問は不安でもありました。この不安を払しょくするために社会学を学ぼうと思ったのが一つの理由です。

もう一つは、第二次世界大戦時にインパール作戦に従軍した父の戦友の方々が残した言葉から、ミャンマーの皆さんの力にならなくてはならないと考えたことからです。彼らは、「将来を誤らないように考え、そして、生きて返してくれたビルマの方々に恩返しをする」とを私たちに希求しています。戦争責任を考え、そしてどのように恩返しをするか、それは正しい方向なのか、それを考えるためにも社会学を学ぼうと考えました。

社会学を学ぶ私のテーマは二つあって、ひとつは「他者に対する距離感と信頼の関係」について調査・研究する

ことです。今年の3月に調査結果をポスター発表ですが数理社会学会で発表することができました。写真はその時のものです。多くの研究者、それも若手の研究者と意見交換ができ、たくさんの刺激をもらいました。できれば論文投稿していきたいと考えています。

また、ミヤンマーの皆さんの力になるため、「共生社会を考える」をテーマにしています。その一環で、私の住む龍ヶ崎市の隣の市にある「東日本入国管理センター」通称「牛久入管」をTBSキャスターの膳場貴子さんと共に訪れました。左の写真は、訪問後に行われた討議の際の写真です。

私が社会学を学び始めた後に、社会は大きく変わってしまいました。新型コロナウイルスパンデミック、ミヤンマーの軍事クーデターそしてウクライナ戦争。どれもが人々を分断してしまっています。共に生きる社会を考え、行動して行くことが今の私の課題です。



2023年5月「牛久入管」訪問後の座談会

## 還暦を迎えて



石原 孝子  
(旧姓 広岡)  
高33回卒

8月、地元掛川で開催された同窓会に参加させて頂きました。私達、高33回卒のメンバーは最後の幹事年でもあり、還暦を迎え元気な内に集まっておこうという気持ちも高まってか、予想を超える人数の同級生が集まりました。あまりに久しぶりで、会のスタート時には誰なのか全く思い出せなくても、会話を交わせば、話し方や笑い方で「ああ！」と懐かしいあの頃の顔が蘇るから不思議です。楽しく尊い時間を準備してくださった幹事の皆様に本当に感謝です。

私は卒業後、東京の大学に進学しそのまま百貨店に就職。当時は3年くらい働いて結婚退社しようというくらいに考えて、まさか自分が定年まで勤めるとは全く想像もしませんでした。思い起こせば私達は「新人



2023年5月トレッキング仲間たちと六甲山にて

類「ハナコ世代」と呼ばれ、86年の男女雇用機会均等法施行で、企業が大卒女子の働き方に新機軸を考え始めた時代に社会人になりました。入社後は「総合職」という名の下で、マネージメントからプロモーションと様々なことを経験させて頂き、上司やチームに恵まれたこともあって、結婚はしたものの家のことはそつちのけで、ドンドン仕事にはまっていきました。担当店舗が銀座だったので、今となってはお伽噺のようなバブルという時代にもどっぷり浸りました。その後、本社のある大阪への転勤や、海外プロジェクトへの参加、有楽町新店のOPENなどを経験しました。楽しかったことも辛かったことも、今となればすべてよい思い出です。



2023年8月掛西同級生と奥大井にて

今、世の中は先行き不透明なVUCA(③)の時代、コロナ禍で様々な価値観も変容し、占星術的にはモノに縛られない「風の時代」が始まりました。昭和の私達世代は新しいライフステージをどう生きるのでしょうか。私は還暦を迎え、今までの自分の延長上にないうなこともチャレンジしようと、トレッキングを始めました。友人達は私の

## 地理学的感性を育んだ高校時代



落合 康浩  
高33回卒

新しい趣味がとて意外なようですが、8月の同窓会翌日もみんなで大井川鉄道に乗り奥大井をたくさん歩きました。西高時代の黄色い帽子で高原教室の還暦版です。時代は変わっても西高で出会った友達は変わらないでいてくれます。西高時代に得た人生の宝物に感謝です。

\* VUCA Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)

私は高校生の時分、「良い成績を修めるために努力する」というタイプにはほど遠い生徒でした。だから成績は、とてもひとに誇れるようなものではなかったのですが、唯一「地理」だけは、それなりの成績を得られたように思います。担当する先生のお話が面白かったということもありますが、地理の授業をいつも楽しみにしていた覚えがあります。一般に高校の授業では、その科目で教えるべき内容を文章主体にまとめている冊子、いわゆる「教科書」が使われます。地理では、そうした冊

子とならぶ教科書として「地図帳」が用いられます。高校生の私が一番愛用していた教科書が、この地図帳でした。



2011年パミール(タジキスタン)における農村の調査で

授業の話題に取り上げられていた場所を地図上で確認するために用いることが多かったのですが、私は、講義の内容と地図に描かれた情報とを併せて、その場所を旅している自分を夢想して楽しんだりもしていました。もともと、小さい頃から旅というものに強い興味・関心を持っていました。そのため高校生の頃も、テレビの報道や紀行番組などをみながら、旅の疑似体験をすることも多く、そんな時には必ず地図帳を傍らに置いていたと思います。

地図帳には、一般的な地図のほかに各地の自然環境や資源、民族、宗教、産業、流通などに関わる主題図やデータを整理した表などがたくさん掲載されています。それらに頻繁に接することで、環境や諸事象の地域差といったことへの地理的な興味が私の中で膨らんでいったように思います。また、同級生や、部活動を通じた先輩・後輩との交流の中でも、地域差を感じる機会が多々ありました。掛川市や私の住んでいた菊川町(現、菊川市)、そのほか通学者の住むそんなに広くない世界の

中でも、地区ごとに言葉や生活習慣などに微妙な違いのあることにも気づかされました。そして、そんな感性を育ててくれた地理について深く学ぶことを志して大学の地理学科に入学し、これまで地理学の研究を進めてきました。現在は、大学で教壇に立ち、国内や外国各地のフィールドで地域的特色を捉える地理学的な研究を実践しています。今日の私があるのも、掛川西高の3年間で培われた感性や興味・関心があればこそだと思っております。

## メドックマラソンの思い出



金村真由美  
(旧姓 花枝)  
高33回卒

仮装してワインを飲みながら、しかも42・195キロのフルマラソンを走る『メドックマラソン』を皆さんはご存知でしょうか? 世界的なワインの生産地、フランス・ボルドーのメドック地区で毎年9月に開催され、フランス国内だけでなく、世界各地から約8500名ものランナーが集う大会です。その年のテーマで仮装(2015年は『ドレスアップ』)をし、20箇所を超えるシャトーと葡萄畑を走り抜けます。男女各一名の優勝者の賞品は、な

んと体重分のワインが! そしてこの大会の醍醐味は、なんと



シャトー・コス・デストウルネル前で給ワイン

ても各シャトーに給ワイン所があるとところでしょう。生ハムやチーズなどのおつまみ、ボルドーが発祥のお菓子カヌレ、フルーツ、その他のフードも盛り沢山という異色の大会に、「ワインを飲みながらフルマラソンを走る友達に貴女しかいない。一緒に走らない?」という、ワイン好きの友人の一言で出場することに。3人目の出産以来、走ることから10年以上遠ざかっていましたが、少しずつ練習を始め、翌年の掛川新茶マラソンのフルを走るところまでこぎつけ、8年前の2015年9月12日、53歳にして第31回メドックマラソンのスタート地点に立つことができました。当日の朝は激しい雷雨、走っている間も雨が降ったり、晴れたり、曇ったり、砂利道も多くシューズはドロドロ、多少のアップダウンもあり、決して楽なコースとは言えませんが、スタートからお祭り騒ぎ、タキシードとウエディングドレスのカップル、アニメのキャラクター、女装の男性グループ、民族衣装、手押し車などなど、思い思いの仮装で皆実を楽しそうに走っています。沿道からは Allezi Allezi (アレ、アレ)



中央は完走賞のワイン

頑張れ! 行け! という声援が常に聞こえてきて、小さな子供たちはハイタッチを求めてきたり、バンドの演奏があったりと、私達も終始笑顔で楽しく走ることができました。のんびり走っても良いのですが、35キロ過ぎからは生ガキ、ステーク、アイスクリームなどが振る舞われるので、何としても食べたいし、6時間30分以内にゴールすれば、完走賞のメダルと木箱入りのフィニッシュワインをいただけることとあって、私達はそれなりのスピードで走り、ステーキも生ガキも食べ(ずっと赤ワインだったのでさすが生ガキの所だけは白ワインで、さすがフランスと感動!)、6時間30分で無事ゴールすることができました。メドックマラソンツアールなるものもあるのですが、経費をなるべくかけないようにエントリーから全て自分達でやり、イスタンブールを経由して(6時間のトランジットだったので、トルコに入国し、ブルーモスクも観光)ボルドー入りし、大会終了翌日は、列車でスペインバスクに行きバル巡りと、実に思い出深い旅になりました。最近では身体

ちは痛いし、コロナ禍で旅もままならなかつたりで、あの時友人に誘ってもらって本当に良かったなと思います。ワインが好きでフルマラソンが走れる方、メドックマラソンに参加してみませんか？

## 栄冠は君に輝く？



鈴木克明  
高33回卒

高校時代を振り返ってみても、特別なエピソードもなく極々平凡にすごした3年間でしたが、ひとつふと思いついた3年生の時の「スポーツテスト」のことを書いてみたいと思います。40年以上前の記憶だけが頼りですので、事実と異なる記載もあるかと思いますが、ご容赦いただきたいと思います。毎年、初夏のころに行われていた「スポーツテスト」。当時は、ハンドボール投げ、走り幅跳び、1500メートル走などの種目がありました。何となく花形は50メートル走。今も昔も足の速い男子はモテる、と勝手に思っています。当時、私はギター部所属で、帰宅部同様の怠惰な生活を送っていました。中学3年時には掛川、小笠原大会の100メートルハード

ルで優勝経験もあり、多少なりとも走力には自信を持っていました。「普通に走れば満点(6秒4以上)は取れるだろう」と余裕をもって臨みます。

さて当日、いくつかの種目をこなし、いよいよ50メートル走の順番です。体育大会とは違い、だれが見ているわけでもありませんが、少しドキドキ、ワクワクしながらスタートを待ちます。3人一組で測定するのですが、組分けは身長順。170センチ弱の平均的な私は、やはり平均的な体格のM君とS君と一緒に走る事になりました。

「用意、スタート!」。爽やかな初夏の空気の中、颯爽と50メートルを駆け抜けます。「ゴールイン!」。タイムは、6秒3、見事満点獲得。となりましたが、3歩先にはM君、1歩先にはS君が先んじてゴールしています。タイムはそれぞれ、5秒8と6秒1。平均タイムが7秒前半ですから今でも驚異的な記録です。各クラスでも多分3〜4人位しかいないだろう満点の走りをするが最下位になり、なんとなくフラストレーションを感じる結果となっていました。

種を明かせば、この二人、わが栄光



の野球部が誇る俊足コンビの主将と副主将(この夏の県予選のことは聞かないでください)。早稲田大学進学後、東京六大学野球で2度の最多盗塁を記録、日本生命野球部でも日本一に輝いた外野手「守屋公雄」君と、

今を時めく、ソフトバンク株式会社代表取締役社長執行役員兼COO「篠葉淳」君でした。今思えば、この二人と一緒に走れたことは、ちよつと自慢したくなるような、なかなか経験できない貴重な体験でした。



## 思った時は行動する時

増田高夫  
高33回卒

何歳からが中年か、このようなことに定義も正解もありませんが、私自身「己が中年」を意識する40代の頃から表題の言葉を意識しています。みなさんの周りに、資格の取得や外国語の習得等、仕事に限らず遊びでも、新しいことへの取り組みに対して「私ももう10年若かったらな」「費用対効果を考えると・・・」等、「行動しない理由」をあげる方がいません。

今年60歳を迎え、大学卒業後に働いていた漢方薬メーカーを三月に定年退



両国橋下流からスカイツリーを望む

職しました。会社に残る選択肢もありましたが、新しいことに取り組むのは「今でしょ」と考え、春からセカンドキャリアをスタートさせました。もう60歳なのはまだ60歳なのか、考え方、気持ちの持ち様ですね。現在の職場の最寄り駅は茅場町です。周囲の駅名をあげれば日本橋、小伝馬町、人形町、八丁堀、門前仲町等、歴史好きには地名を聞くだけでワクワクするエリアです。職場界隈の店舗の趣きやディープ感、水路に恵まれた江戸を感じさせる地形、飲食・散策と、出勤することが楽しみになっています。静岡は素敵な所ですが、全国ニュースとなるイベント、施設、そして歴史上の舞台となった場所へ、短い時間と少ない交通費で行ける東京(首都圏)の魅力、これは地方出身者が首都圏に住んでみて感じるどころ、せつかくそのような環境に恵まれているのですから、それを使わない手はないと思います。今年富岡八幡宮例大祭「深川八幡祭り」が6年ぶりに開催。今までテレビでしか見たことがない、豪快な水かけ神輿渡御が行われます。私の職場の前の道路がこの神輿の移動ルートに、また職場ビルが神輿の発着となる町会の集会場になっていることもあり、8月の祭り当日、「あっ、そうだ。行ってみよう。」と、初めて祭り見物へ、そして深川界隈を散策しました。小名木川、仙台堀川、大横川等、かつては猪牙舟が行き交いする場所、昔と変わらない祭り当日の景色の中で、自身がタイム

リーブしたかのように、街の景色が変わって見えました、大川(隅田川)に架かる永代橋からの景色等、行動して良かったと感じる一日でした。

今年、静岡で生活している老親との残りの時間の過ごし方も模索し、東京と静岡の二拠点生活を新たに始めました。現在の仕事は、週に一日程度の出勤、他はリモートワークなので、このような生活を可能にしています。静岡に住んでいる高校時代の同級生と、仕事帰りの一杯も計画中です。思った時は引き続き行動に移しています。

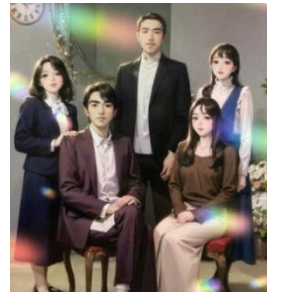
## 人生100年時代の バケットリスト



松本 日出夫  
高33回卒

織田信長が桶狭間出陣に際し吟じて舞った「敦盛」の一節に「人間50年」とありましたが、日本人の平均寿命が50歳を超えたのは1947年なんだそうです。そして、2020年の日本人の平均寿命は84歳。誰も自分の寿命はわかりませんが、ボクが100歳まで生きるとしたら余命39年です。映画「最高の人生の見つけ方」では主人公は余命半年になってからやり残したこと(バケットリスト)にチャ

レンジするのですが、ボクはボクに与えられている(だろう)余命39年の時間を「好奇心とオンリーワン」をテーマにして過ごしていきたいと思っています。



「リスト1・好奇心」ボクはスポーツ心理学に興味があります。特にアンダーマネジメントに焦点を当てた仕事を追求していくのがボクの夢です。このふたつはこれまでの人生でぼんやりと思っていたことでした。この道に進むことには、スポーツと老後のコミュニケーションの両方において、重要な役割を果たすと思っています。アンダーマネジメントは、怒りやストレスといった感情をコントロールし、建設的な方法で処理する能力を指します。スポーツにおいて、アスリートやコーチが感情を効果的に管理することは、とても重要だと私自身の競技生活でも何度も経験しました。私はこれからこの分野の勉強をして、現役のアスリートが最高のパフォーマンスを引き出す手助けをすることができたら、こんなにうれしいことはありません。また、アンダーマネジメントはスポーツだけでなく、最後の生活にも役立つスキルだと思っています。高齢になると、身体的な挑戦だけでなく、感情的な面でも様々な困難に直面します。怒りやイライラが適切に処理されない場合、健康

問題や人間関係に悪影響を及ぼすことがあります。私は高齢者の方々が感情を健康的に処理し、円滑なコミュニケーションを促進する手助けをしたいと思っています。

「リスト2・オンリーワン」ボクに与ったのオンリーワンは家族です。毎日の妻との食事のひと時や子供たちとの何気ないLINEのやり取りのひとつひとつがかけがいのないものだと感じています。これまでボクを支えてくれた家族への恩返しはボクだけができるただひとつの。そして何よりもやり遂げたい夢です。

人生100年の余命39年を新たな仕事に捧げつつ、家族とともに静かな時間を過ごしていければ、こんな幸せなことはありません。これがボクの今の「バケットリスト」です。

## お世話になった下宿生活



守屋 公雄  
高33回卒

私の高校時代は野球部に所属し、甲子園を目指し毎日練習に励みました。遠方からの入学でしたので、掛西野球部の先輩の青嶋さんのご自宅を下宿生活をさせて頂きました。中学校を卒業

したばかりの私に対し、高校の野球部の方々は勿論ですが、下宿先においても野球に対する取り組みを教えて頂いた事は、大きな財産となりました。

今回、東京東北会の寄稿の機会を頂き、高校時代、大変お世話になった青嶋さんのおじさんとおばさんへの感謝の想いを記させて頂きます。

一つ目は、「帰宅後のバットスイング」です。どんなに遅く帰ってきてても夕食前の100回のバットスイングは日課でした。初めの頃、適当に振って家にあがろうとすると「今、振ってた？」と聞かれ、「何とか。」とごまかして練習を終わろうとすると「これからは木の葉っぱをかすらせるように振ってごらん。音が聞こえるから。」と言われ、このことを継続してやるようになりました。この微かに葉っぱにかすらせるバットスイングは、何回振ったかではなく、どのように、かすらせるかという発想に変わり、ゲーム感覚で取り組むことで、単純な練習も積極的に取り組めるものだと実感しました。

二つ目は、「食事は、どんなに疲れていても、しっかりと食べる事。食べる事も練習の一環。その積み重ねが強い身体を作る」という事です。おばさんには、毎日栄養を考えた食事を出して頂きました。しっかりと食べることで、暑い夏の練習にも、バテることなく臨むことができました。ただ私は、学校帰りに自動販売機で買って来た缶ジュ





ースを、布団の中で、パシユツと音を出さないように開けこつそり夜飲むのが唯一の楽しみでした。

三つ目は、「道具を大事にする」という事です。おじさんは、試合前日に必ず私のスパイクを磨いてくれました。「心を込めて磨く事で、必ず道具が助けてくれるぞ」と、丁寧に磨いて頂き、その後自らも実践し、この事は後の野球人生においても継続し続けました。

おじさんもおばさんも、野球で活躍した時は一緒に喜んでくれました。その他、多くの事を教えて頂きましたが、「より良い行動の習慣化が成長に繋がる」というお二人の教えはその後の私の生活の礎となりました。

青嶋のおじさん、おばさん、本当にありがとうございました。

\*東京六大学野球(早稲田)  
1984年春季リーグ 最多盗塁  
1985年秋季リーグ 最多盗塁

## フランスの港町ナント



築山和也  
高36回卒

『シエルブルーの雨傘』で知られるフランスの映画監督ジャック・ドゥミのデビュー作『ローラ』(1961年)をご存知でしょうか? 7年前に姿を消

した初恋の相手を待ち続ける踊り子の恋物語です。アヌーク・エメ

が演じる主人公ローラの美しさもさることながら、舞台となる港町

ナントの趣ある情景が印象的な作品です。私がこの映画を初めて観たのは、そのナントで百年続く老舗の映画館「カトルザ」でした。

『ローラ』では登場人物がカトルザの客席で映画を観るシーンがあり、あたかも自分がその場面に入り込んでしまったかのような不思議な感覚に捉えられたのを今でも記憶しています。

フランス文学を研究するため、フランス西部のこの街に来たのは1993年のことです。ロワール川に港をもち、新鮮な魚介類に恵まれた当地では、とりたての鰯や牡蠣が早朝から市場はもちろん街角でも売られています。種類豊富な牡蠣はそれぞれ味わいが異なり、食べ飽きることがありません。ナント名産の白ワイン、ミユスカデやグロ・プランがそれによく合います。ブルターニュ地方の名物そば粉のガレットも、ここの楽しみの一つです。呑んだり食べたりするうちに、どうにか博士論文が出来上がって、五年間の留学生活が



映画館「カトルザ」

終わりました。

今は慶應義塾大学文学部で学生に寄り添う立場にあります。読むことが好きで文学部に進みましたが高校の頃には将来フランスに留学するとも大学の教員になるとも思っていませんでした。今の自分の原点は掛西にあると言えば嘘になるでしょうが、それでも高校時代の英語の鍛錬がその後のフランス語の習得に繋がったことはたしかで、それがなければ別の人生を歩んでいたにちがいないと思います。

高校の1・2年次にクラス担任だったのは英語の横山八千代先生です。先生にとっては、面倒な生徒の一人だったかもしれない。遠足をサボってサッカー部の部屋に一日潜んでいたこともありました。翌日、病欠を主張して、先生はお見通しだったようです。ほぼ全員が脱落した英語の夏期講習で、最後まで意地で残ったことも思い出されます。今

からちょうど40年前の夏。授業のあと、世界史の先生が「池田、PLに負けだよ」と教えてくれました。



ガレット

\*9月に訳書『未知なる地球(無知の歴史 十八・十九世紀)』(アラン・コルバン著、藤原書店刊)が刊行されました。

## 友との思い出、歌との出会い



松村萌子  
高41回卒

高校1年の新学期、背の高い方だった私は、新設されるバスケットボール部の勧誘を受けて入部しました。毎朝8キロもの道を自転車登校し、バスケット部の朝練、時に英語の朝テストがあるハードな毎日を頑張るのも束の間、夏休みの大会前には、とうとう高熱を出しギブアップしてしまいました。バスケット部の仲間は、普段はおちゃらけてふざけ合い、いざ練習となると真剣な眼差しでバスケットに向かう素敵な人たちでした。自転車競技選手の杉浦佳子さんも新設当初のバスケット部員でした。

このまま一緒に部活動したいけど体力が持たない「どうしよう・・・」という悩んでいたとき、バスケット部の友人つながりで仲良くなったKさんから「音楽部においてよ、楽しいよ!」と誘われました。その一言に惹きつけられ音楽部に移るようになりました。

音楽部って何をやるんだろう? と、ドキドキしながら音楽室に行くと、先輩が「オペラ公演の配役を決めるから、ジャンケンしよう」と言い、勝ったのが負けたのか忘れましたが、オツフェ

ンバッハの「天国と地獄」というオペラのキューピッド役を仰せつかり、楽譜と台本が渡されました。オペラって何？ キューピッドって？ わけがわからないまま練習に参加。「キューピッドとは僕だよ、僕が幸せを運んで来るんだ！ ランランランララララン」キューピッド役の一節に感動し、一瞬にして歌の魅力に取り憑かれました。それは、歌が私に幸せを運んでくれた瞬間でもあったのです。

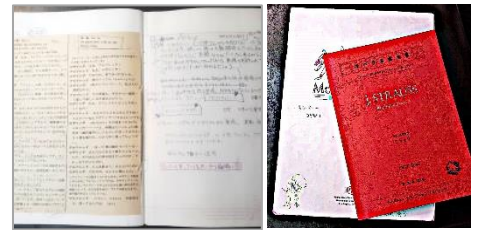
女子部員で衣装を作り、男子部員は大道具、小道具を作る、何から何まで手作りで、1年間かけて準備をしました。最後のフレンチカンカンのシーンでは、みんなで足を大きく上げて踊りました。もう楽しくて楽しくて。その次の年は、ヨハン・シュトラウスの「こもり」でした。

オペラの発表会を観に来てくださったピアノの先生から、「あなたはピアノはダメだけど、歌で音大に行ったら？」と、言っていたとき目を輝かせました。歌を習いたい、音大に行きたい。それ以来、毎晩



オペラ発表会「こもり」生涯学習センターにて

父の枕元で「東京の音大に行かせてほしい。」と嘆願し、家族会議の末に音大受験にGo sign が出ました。Kさんの「音楽部に来ない？」の一声が、音楽の道を歩むきっかけになったと言っても過言ではありません。先日コンサートに、Kさんも静岡から駆けつけてくださいました。メッセージカードに「あれからうん十年経ったけど、萌子に会えば、気持ちには高校生だよ！」と書かれてあり、胸が熱くなりました。高校時代を明るく温かく照らしてくれた友人たちとの思い出、歌との出会いが走馬灯のように思い出され、出会えた喜びを心深く刻みたいという気持ちが高まりました。ベートーヴェンは、シラーの「歓喜に寄せて」の詩に、「おお友よ、このよな旋律ではない！ もっと心地よいものを歌おうではないか、もっと喜びに満ち溢れるものを。」と、自ら加え作詞しました。心の中に友の存在があることの喜びをベートーヴェンも噛みしめたのでしょいか。心を寄せ合い語り合ったこと、共に一つの作品を創ったこと、何十年経っても色褪せることなく輝いています。



当時のオペラ「こもり」の台本

## ● 東京冀北通信 ●

◆石田 武 中44回卒  
ご盛会をお祈り申し上げます。

◆園田 清 高4回卒  
卒寿の峠を越え運転免許も返上しました。皆様のご健勝と母校の発展を祈念いたします。

◆藤原 光太郎 高4回卒  
今年10月末で満90歳になります。が健康です。皆様に宜しくお伝え下さい。

◆山崎 鏡子 高4回卒  
90歳も目前に、猛暑を何とか潜り抜け、やつと秋風に巡り合えて、ホッとしています。

◆鍋代 隆士 高7回卒  
八十八夜の新茶を掛川から取り寄せ、郷土の香りを楽しんでいきます。

◆川村 弘史 高8回卒  
何とか毎日2000歩以上を歩くようにして元気にしています。当日は同期の者を誘って会えるのを楽しみに参加します。

◆小杉 慎一 高8回卒  
ご案内いただき有難うございます。若い皆さまの力を頂き、明日への心の糧と致します。

◆河原崎 守彦 高9回卒  
橋本会長には、当会の発足時以来、多大なご貢献を頂き感謝申し上げます。役員の方々、事務局の方々のご尽力に感謝しつつ、ご盛会をお祈り申し上げます。

◆花島(平野)美喜子 高9回卒  
毎日食堂の椅子に座ってテレビを見たり、数独をやったり時々散歩。でも今

年の夏はかなりしんどい夏でした。色々なことを片っ端から忘れ、面倒なことは見ないふりをしています。

◆赤岩 覚 高10回卒  
ご盛会をお祈り致します。

◆近藤 静男 高10回卒  
急遽カナダに行く用事が出来てしまいました。今回は欠席させて頂くことになりました。我々10回生は毎年20〜30人で集まっています。今回もイオン創設者の常盤氏幹事で集まります。

◆常盤 敏時 高10回卒  
所用が有り、欠席させて頂きます。ご盛会を念じています。

◆佐野 和夫 高12回卒  
大病院の担当医と能面について話す中で、病という魔物を退治する面はないかで、鎌倉時代の神事芸能由来の穏やかで至福に富んだ世の安寧を願う翁面を選び、丁寧に心を込めて打っています。

◆鈴木 安彦 高12回卒  
真空管オーディオと共に楽しく過ごしています。

◆栗倉 健一 高13回卒  
昨今の会報等情報がバラエティに富み面白いです。そこで私も一つ参加。拙作詩に曲が付いたものが「日本歌曲振興波の会編集、全音楽譜出版社の出版で「日本歌曲集1」に掲載。Yahoo等で全国販売中。関心ある方は是非購入して歌ってください。

◆神谷 省吾 高13回卒  
8月に81歳に到達。元気です。ボケ防止のためのインターネット株式投資、水彩画活動、読書等で生命を維持しております。母校の一層の発展を祈っております。

◆中山(高木)紀子 高14回卒  
ベトナムに旅行中なので欠席します。  
ご盛会をお祈りいたします。

◆秋野(谷)文子 高14回卒  
元氣です。

◆橋山 高昭 高14回卒  
当日所要にて御前崎市に戻る予定です。  
残念ながら欠席です。ご盛会を祈念  
いたします。

◆神谷 達雄 高15回卒  
過日三戸岡道夫著「二宮金次郎の一生」  
をしつかり読みました。「金次郎」の一  
生が具体的かつ詳細に書かれており、未  
読の方には絶対おすすめの作品です。

◆伊藤 智明 高16回卒  
ご苦勞様です。今後とも宜しくお願  
い申し上げます。

◆竹原 繁男 高16回卒  
メールを発信下さり、有難うございま  
す。毎日毎日元氣で過ごすことで、有難  
いと思うこの頃です。

◆石川 啓行 高17回卒  
関東在住の仲間たちと4年ぶりに「寄  
合」を予定。残念ながらメンバーも少  
ずつ減少し、声掛け対象も約10名。い  
つもお世話さまです。

◆岡本(石山)浜子 高18回卒  
御盛会をお祈りいたします。浜松より  
移住して13年、近くに住む5人の孫の  
世話・趣味を楽しみ、忙しく暮らして  
おります。大宮起点にカメラを背負って  
旅も、夫婦助け合って続けています。7  
月にコロナに罹りましたが、幸い軽症で  
した。

◆千葉 東洋 高18回卒  
子供達の水泳指導を始めて今年で5  
1年。この9月23日には渋谷のセルリ

アンタワーで東洋スイミング50周年  
パーティーを行います。現在は教え子の  
二世を沢山指導している毎日です。

◆伊藤 彰 高19回卒  
この夏墓参りに上西郷の石畑に帰省  
の際、NHKの「どうする家康」の影響  
で、すぐ目の前の二代將軍秀忠の生母  
西郷局の産土神であった「五社神社」に  
立ち寄りしました。幼い頃遊んでいた広場  
が、そうだったんだと・・・この年にな  
って初めて知りました。於愛の方(広瀬  
アリス)に乾杯!!

◆鈴木 正具 高19回卒  
法事と重なってしまいました。残念な  
がら欠席です。盛会をお祈りします。

◆富永 一郎 高19回卒  
10月4日の掛川での同窓会に出席  
予定。皆様に宜しく!

◆堀川 正 高19回卒  
コロナ明けの気分ですが、同期会、同  
窓会が重なっています。

◆鴨川 富美子 高19回卒  
田舎暮らしをしていると情報も少な  
く、取り残されてゆく感じがするので、  
たまには東京に出たいと思ひ、可能な限  
り参加しております。

◆山本 研司 高20回卒  
土日の競馬、週一の卓球とドラム、数  
独にもはまっております。十年ぶりにゴ  
ルフも再開しました。盛会を祈っており  
ます。

◆伊与部(妻木)みち子 高21回卒  
毎日元氣に過ごしていられたことを  
神様に感謝する年齢になりました。でき  
たら仕事はあと2・3年、ダンスは80  
歳まで続けたいと思っています。今は健  
康な体(十脳)以外、特に欲しいものは  
ありません。

◆妻木 良男 高21回卒  
現在週4日、パートで働いています。  
9月25日のゴルフコンペは下手です  
が、芝刈りに行ってきます。

◆森田 重敏 高21回卒  
年に一度の総会・懇親会。楽しみにし  
ています。役員の皆様、毎年の卓話はよ  
く考えられていると思います。有難うご  
ざいます。

◆内田 金男 高22回卒  
本年8月に掛川で行われた掛西同窓  
会にて、8人の同期生と再会できました。  
卒業から53年の長い年月の隔たりも  
何ら感ずることなく、旧交を温めること  
ができました。関東に在住する昭和45  
年卒の同期生の皆さんとも、是非お会い  
したいものです。

◆河本 光由 高23回卒  
幹事、事務局スタッフの皆様、ご苦勞  
様です。

◆山村 十吉 高23回卒  
幹事の皆様ご苦勞様です。ここまで発  
展した同窓会になり、感謝申し上げます。

◆堀内 邦彦 高24回卒  
総会当日は、学生時代のサークルの会  
合とダブってしまい、欠席を余儀なくさ  
れました。

◆三浦 秀彦 高26回卒  
昨年退職し、今は週1・2回公民館の  
受付をしています。

◆三谷 充弘 高26回卒  
冀北会支部が数ある中で、会報・H  
P・FB等、東京冀北会がお世辞抜きで、  
抜き立てていると思います。役員・事務  
局の方々に深い敬意を捧げます。

◆石山 博巳 高27回卒  
退職して6年。毎日自宅で猫と遊んだ

り、読書をしたりでのんびりと暮らして  
います。

◆太田 裕一郎 高27回卒  
何かを調べる時にAI搭載の検索機  
能を使ってみると、とても便利で重宝し  
ています。間違ってもそれなりにあり、注  
意もしないといけないですが、AIがど  
んな進化を遂げるか興味津々です。

◆川村 敏幸 高27回卒  
現在障害を持っている児童の介助の  
仕事をしています。毎日教えられること  
が多いです。

◆石井(岡本)礼子 高28回卒  
9月に2回連続で放映された「家族に  
乾杯」を見ました。懐かしいと思う場所  
と全く以前と変わってしまった場所が  
有りました。改めて歴史と文化の町なの  
だと思いました。

◆樽松 正記 高28回卒  
昨年12月に長年勤めた会社を退職  
し、すぐさまクライアントであった会社  
に就職しました。インドへ、ハワイへと  
出張もあり、忙しく過ごしています。イ  
ンドではバラナシに寄る機会が有った  
ので、ガンジス河で沐浴してきました。

◆萩原 隆司 高28回卒  
広島への移住が決まり、本年度から参  
加できなくなりました。今後とも宜しくお  
願ひします。会の盛会をお祈りします。

◆岡田 健治 高30回卒  
初めて出席させて頂きます。

◆田中(岩瀬)由枝 高30回卒  
残念ながら欠席いたしますが、盛会を  
お祈りいたします。

◆榎本 正樹 高31回卒  
土日は子供向けロボット教室を開い  
ているため、欠席とさせて頂きます。

◆**福田 知弘** 高32回卒  
当日は会場近くで講演があり、参加できません。皆様に宜しくお伝えください。

◆**落合 康浩** 高33回卒  
ご案内有難うございました。当日業務にて参加ができません。盛会をお祈りしております。

◆**片岡(鈴木)千春** 高33回卒  
初めて東京冀北会の同窓会に出席します。今年、幹事学年として準備に関わらせていただきましたが、卒業以来会っていないかった同級生と久しぶりに話ができ、とても良い機会になりました。

◆**金村(花枝)真由美** 高33回卒  
今年は8月の同窓会総会も大盛況でしたので、東京冀北会総会も楽しみです。皆さんにお会い出来ることを楽しみにしております。

◆**春田 由紀子** 高33回卒  
今回の準備に当たり、久しぶりの同級生とも出会えたり、ご縁のある先輩に会えたりと、とても嬉しく有意義な時を与えて頂き、有り難いなーと思う気持ちでいっぱいです。当日はもつと沢山の方々とお会い出来ると思うので、楽しみです。

◆**竹村(大石)聖之** 高34回卒  
いつもご連絡ご調整頂き有難うございます。ご盛会をお祈りしております。

◆**鈴木(原田)泰子** 高35回卒  
11月が来ると冀北会の季節だなと思います。事務局に入って2年目、私はまだ何もできていませんが、何か少しでも役に立ちたいと思っています。

◆**高木 博** 高37回卒  
仕事の都合でお伺いできず申し訳ございません。第35回東京冀北会総会・懇親会の盛会を祈念いたしております。本年10月より、会長秘書から不動産部

へ異動となり、新たな気持ちで仕事をしています。

◆**田中 保次** 高37回卒  
サイバーセキュリティに身を置いていましたが、この度ソフトウェアセキュリティ全般に携わるべく、思い切った転職しました。いわゆるグローバルアカウントの技術支援で世界を飛び回ることにしようです。

◆**嶽本(平尾)あゆ美** 高37回卒  
ようやくコロナが明けたような社会です。でもまだ不安は尽きません。12月にアルツハイマー病をテーマにした演劇を再演します。毎日自分の老いを感じつつ、心は若く保とうと、稽古に励んでいます。

◆**植田(永田)圭子** 高41回卒  
野球やその他卒業生のイベントのご連絡等、いつもありがとうございます。

## 訃報

◆**富田 彦雄** 中38回卒  
2005年逝去

◆**八木 栄二** 中41回卒  
逝去

◆**太田 定平** 中44回卒  
2023年7月9日逝去

◆**坂部 俊一郎** 併2回卒  
2021年12月逝去

◆**酒井 登** 高2回卒  
2022年逝去

◆**朝比奈 秀次** 高3回卒  
2022年12月逝去

◆**中村 正雄** 高3回卒  
2023年8月6日逝去

◆**鎌田 由松** 高4回卒  
2022年8月5日逝去

◆**岩ヶ谷 一夫** 高5回卒  
2022年12月逝去

◆**林(米沢)はま子** 高5回卒  
2018年7月18日逝去

◆**小山 恭司** 高8回卒  
2022年逝去

◆**平松 幸雄** 高9回卒  
2023年9月5日逝去

◆**杉村 敬** 高10回卒  
2022年7月22日逝去

◆**寛(角替)富士枝** 高10回卒  
2023年1月逝去

◆**近藤 隆彦** 高12回卒  
2019年10月22日逝去

◆**曾我 尚志** 高13回卒  
2023年2月2日逝去

◆**増田 正** 高17回卒  
2023年4月29日逝去

◆**田中 秀芳** 高18回卒  
2021年逝去

◆**弓田 覺造** 高19回卒  
2021年10月16日逝去

◆**山崎 泰志** 高20回卒  
2023年1月28日逝去

◆**田辺 浩** 高23回卒  
2023年6月8日逝去

◆**榎葉 三代司** 高24回卒  
2022年逝去



ホームページ **中日新聞**  
高校・大学周年特集  
掛川西高100周年 天守の社に

掛川西高校、「質実剛健」「文武両道」の校風が生んだ熱き青春群像を追いながら、校史に残るエピソードや卒業生の活躍ぶりを紹介しています。

第1部 校史編  
第2部 部活動編  
第3部 人物編

⇒2000年5月制作版  
未読の方はぜひご一読を!

<2023/11 退任役員・事務局>

橋本 和久 様 (会長) 高19回卒  
伊与部 みち子 様 (監査役) 高21回卒  
内田 金男 様 (監査役) 高22回卒  
萩原 隆司 様 (事務局員) 高28回卒

長い間、東京冀北会の活動にご尽力頂き誠にありがとうございました。一緒に活動した時間は楽しく、寂しい気持ちもありますが、新メンバーと共に引き継いで参りたいと思います。  
新役員・事務局員一同

<東京冀北会 新役員候補>

会 長 杉森 正彦 (高28回卒)  
副 会 長 端詰 正子 (高24回卒)  
野川 雅江 (高26回卒)  
後藤 利康 (高27回卒)  
代表幹事 杉山 文章 (高29回卒)  
事務局長 小柳津康博 (高32回卒)  
事務局員 野中 俊文 (高37回卒)  
廣畑 淳也 (高55回卒)  
黒田 浩幸 (高62回卒)  
会計監査 鈴木美智雄 (高32回卒)  
鈴木 泰子 (高35回卒)

## 掛西野球部 サポーター募集 掛川西高校野球部後援会より



日頃は、野球部後援会の活動にご支援いただきありがとうございます。野球部はここ3年夏の大会はすべてベスト8以上で、昨年春は東海大会で優勝するという活躍しております。今秋は番狂わせで西部地区大会にて敗退してしまいましたが、1、2年生も静岡県ではかなりの力を持っており、来年以降も楽しみな人材が揃っています。甲子園から10年以上遠ざかっており、資金的には苦しい中、選手監督スタッフ皆頑張っております。是非今後も多大なるご支援をよろしくお願いいたします。

掛川西高野球部後援会会長 早瀬公夫

年会費：12000円（試合球10球相当）／ 6000円（40歳未満）

<振込先> 静岡銀行掛川支店 普通0437698 掛川西高野球部後援会 会計 岡本昌太  
名前・住所・携帯電話番号をメールにて連絡して下さい。

後援会事務局：メール [kakenishi.kouenkai@gmail.com](mailto:kakenishi.kouenkai@gmail.com)

掛川西高校野球部後援会 <https://kakenishibb.blog.fc2.com>

Twitter 掛川西高 野球部後援会~official~ @kakeko1901/<https://twitter.com/kakeko1901>



X

**5/28** 葛城祭、強豪愛知東邦高の招待試合、高橋投手(2年)の好投(完投)もあり、3-1で勝利し今年こそ期待が高まりました。

**6/24** 今夏全国優勝しました慶應義塾高との練習試合(日吉)では、高橋投手(2年)が7回まで好投しましたが、3年生投手が9回表6点と打ち込まれ、3-10で惨敗となりました。

**7/25** 選手権大会静岡大会準々決勝では浜松開誠館に0-7で惨敗し初優勝をアシストした状況になりました。

**8/11** 新チームによる、春夏4度の日本一を誇る智辯和歌山との練習試合(西高グラウンド)では、11-12で敗れましたが、全国で戦うレベルはこういうものだと良い経験ができました。

**8/19** 秋季県大会予選で浜松工業に2-3で敗れ、初戦敗退という屈辱的結果となりました。そのため、来春から全国一律に低反発バットが採用されることになるので、どの高校よりも早く対策がとれるよう渡邊建三氏から低反発バット50本が既に寄贈され練習に寄与しています。

この秋冬の投球バッティング練習結果次第では、来夏には期待に沿えることを願っていますので、野球部後援会にご支援の程よろしくお願いいたします。

## ゴルフ有志の会

9月25日、13人の参加、快適なゴルフ日和のもと和気あいあいとPLAYを楽しむことができました。皆様のご協力に感謝します。年末開催プロゴルフのJTカップと同じコースでゴルフを堪能していただけたことと思います。

次回もより多くの皆様のご参加をお待ちしています。

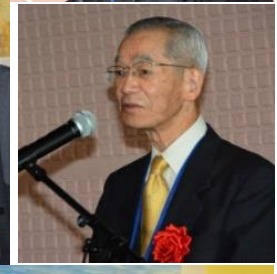
[連絡先] 松浦正幸(高20回卒) tel:090-4967-5041

メール: [masa518matsu@yahoo.co.jp](mailto:masa518matsu@yahoo.co.jp)



2023/9/25 東京よみうりカントリー

# 2022年11月東京冀北会同窓会フォト





## 事務局より



幹事学年(高33回卒)

## 令和4年度東京冀北会収支報告

令和4年4月1日～令和5年3月31日

【期首残高】	1,620,485円…①
【収入】	
年会費 (222名)	666,000円
懇親会費 (78名)	546,000円
総会ご祝儀	30,000円
幹事会・役員会個人負担	215,500円
収入合計 (A)	1,457,500円…②
【支出】	
総会・懇親会費用	661,830円
総会・懇親会その他費用	195,035円
総会通知郵送費(1,875通)	180,636円
幹事会・役員会費用	365,198円
印刷費(案内状、会報等)	18,021円
通信費(HPプロバイダー更新料)	11,700円
備品代・振込手数料(600円)	78,208円
支出合計 (B)	1,510,628円…③
【期末残高】 ①+②-③	1,567,357円
【資金管理】 郵便貯金	1,308,000円
みずほ銀行	257,423円
現金	1,934円

令和5年5月24日 会計監査 伊与部みち子(高21回卒)  
同 内田金男(高22回卒)

### 校歌

作詞 藤井金吾  
作曲 堀福寿

- 一 岩根ごごしき天守台  
その麓にぞわが校は  
基定めて逆川の  
栄え行くこそ樂しけれ
- 二 雨降り嵐すさぶとも  
指してや行かむ小笠山  
希望の懸を射るまでは  
めげず撓まず崩折れず
- 六 やがてまことの功なし  
誉れは栄ゆる百錦  
飾りて花の色そへよ  
大和島根の山桜

### 第一応援歌

作詞・作曲 不詳

- 一 天守の森に草萌えて  
志ある若人の  
胸の血潮の燃ゆる時  
咲くや万朶の花ごころも
- 二 青苔敷ける逆川の  
青葉端月に風吹けば  
熱血ほほにみなぎりて  
見よや勇士のまなざしを
- 三 立てよ我等のますらをよ  
ふるへ我等の同胞よ  
七百望みは胸に燃え  
衷心至誠の血はおどる

### 《編集後記》

副会長 端詰正子(高24回卒)

今年も無事に会報を発行することができました。ご寄稿、またメッセージをお送り下さった皆様に感謝申し上げます。

今年のNHK大河ドラマ「どうする家康」では遠州・三河・掛川城・高天神城と懐かしい名前が次々と登場し改めて地元の歴史を知ることができました。私も奥浜名湖の龍潭寺にて井伊家の甲冑「赤備え」を見て参りました。

9月の「鶴瓶の家族に乾杯」で取り上げられた於愛の方、美しく温和誠実、人望があり慈悲深い女性であったとの逸話を知り、掛川の女性達皆が褒められた様な嬉しい気分になりました。

掛西は今年創立123年になります。中日新聞HPで2000年制作版の「掛川西高校100周年 天守の杜」をまだ閲覧することができ、掛西の歴史、冀北学舎、掛中時代からの活躍した方たちの紹介、メッセージが掲載されています。東京冀北会の方達も登場されています。ぜひ皆さんにも今一度ご覧頂きたいと思えます。時代は進み人材の層は確実に厚くなっています。会報に寄稿して下さい皆さんの文章を読んでもそのエネルギーを感じます。

また2020年の「創立120周年記念誌」では大日本報徳社社長の鷲山泰彦氏(高14回卒)と櫻井宏明元校長の対談の中で「学ぶとは道を知ること」、教育目標は「社会に貢献し未来を切り開く人を育てる」と話されていました。先輩達から引き継いできた掛西の伝統とは何か、高校時代には教えられることがなかった冀北学舎、報徳精神についても新鮮に触れる思いです。

【東京冀北会 Facebook】

<https://www.facebook.com/tokyo.kihokukai>

【メーリングリスト】 google グループ

登録問合先：東京冀北会 事務局

【東京冀北会ホームページ】 <https://www.tokyo-kihokukai.com>



東京きほく

発行日 令和5年11月  
発行者 橋本和久  
発行 東京冀北会

【東京冀北会 事務局 [tokyo.kihokukai@gmail.com](mailto:tokyo.kihokukai@gmail.com)】